

名古屋芸術大学グループ 通信

24
July
2013

Feature

2013年度新任教員インタビュー

新しい息吹 学び合う 喜び

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB

昔ハ美術ナラス?
書道は日本のアートだと思ふ。
横山豊蘭

NUA-STUDENT

勉強を教えるのが面白いです。
人間発達学部 子ども発達科 2年
中広実夢

Lecture [レクチャー]

特別講義や講演会など
■ インテリアデザイナー
島崎信氏による特別講義
「北欧の椅子・日本の椅子」が
行われました

International exchange Activity

【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との交流活動など
■ 2013年度前期 交換留学生の
ウェルカムパーティーが開催されました

News/topics

ニュース&トピックス
人間発達学部
■ 小西貴土氏による文化創造セミナー
「子どもと森へ出かけてみれば」が
開催されました

音楽学部
■ 音楽学部同窓会
第32回 新人演奏会が開催されました
■ 2013年度
音楽学部・人間発達学部
教育懇談会が開催されました

美術学部・デザイン学部

■ 〜フェロー・諸島×名古屋交流展〜
LATERNA MAGICA
ラテルナ・マジカ(幻灯)が
開催されました
■ デザイン学部の学生が
ウインドディスプレイを制作しました
■ 地元北名古屋市の連携活動
彫刻ガイドブック「しむむ」の編集、
吹上浜砂の祭典で「砂像」の制作
■ 桑山忠明氏と林道郎氏による
特別公開講座
「対談・桑山忠明の「空間」について」が
行われました
学校法人 名古屋自由学院グループ校特集
■ 名古屋音楽学校

コラムNUA

「笑いとは何ですか？」
音楽学部教養部准教授 キアラ・ザンボルリン

Master of Artist

マスター・アーティスト
音楽に生きる人
音楽学部教授 竹内雅一

Information

インフォメーション
■ 名古屋芸術大学
2014年度入試日程
■ 2013年度
オープンキャンパス日程
■ 2013年度 音楽学部
演奏会スケジュール
■ アート&デザインセンター
2013年度
展覧会スケジュール



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■ 名古屋芸術大学 / 大学院 音楽研究科 美術研究科
デザイン研究科 人間発達学研究所
学部: 音楽学部 美術学部 人間発達学部
■ 名古屋芸術大学保育・福祉専門学院
■ 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■ 滝子幼稚園
■ 名古屋音楽学校 (名古屋芸術大学 栄 サラテイト)



新しい息吹

2013年度新任教員インタビュー

学び合う喜び

音楽学部 ▶ 弦管打コース 教授



可能性を信じて、
絶対よくなる

高木直喜

(たかぎ なおき)

《主な担当科目》

- 弦管打奏法研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ
- 室内楽
- フルオーケストラ

1975年(昭和50年)
名古屋芸術大学音楽学部
器楽科卒業

1985~2010年
セントラル愛知交響楽団
に在籍(旧ナゴヤシティ
管弦楽団)

《社会活動》

これまでにリサイタルを8
回、ジョイントリサイタル
を4回開催。

協奏曲等オーケストラの共

演も多数。

1997年9月、韓国馬山市
で開催された現代音楽祭に
招かれ演奏。

2012年11月にはルクセン
ブルク、モントラルカンジェ
市で行われた東日本大震災
のチャリティーコンサート
で演奏し、共に好評を得る。
後進の育成にも力を入れ、
門下生の多くが内外で活躍
中。



練習もままならない時代

—先生は2期生だそうですね？

そうです。大学に入った時には、1年上に1期の先輩が
いるだけで1、2年生しかいませんでした。入学した時、管
楽器は2人だけで、先輩にはフルートが2人いて、バイオ
リン1人、3年になってからトロンボーンの前輩が編入し
てきてそれだけです。とてもオーケストラができる状態
ではなく、吹奏楽はおろかアンサンブルもできない、木管五
重奏も組めない。これで音大と言えるのかと思い、大学2
年のとき、器楽科でなくても中学、高校で吹奏楽をやっ
てきた子をスカウトし、足りない楽器を吹かせ、頭数を揃
えてオーケストラを揃えました。でも、そんな寄せ集めで
いいアンサンブルができるわけがないんですね。名大・南山
・名工大とか一般大学のオーケストラ、クラブ活動でやっ
ているオーケストラよりも聴き劣りする。在学中は、その溝
を埋められませんでしたね。大学4年間は、必ずしも満足
のいく経験ができたわけではなかったですが、卒業後、名
フィルなどでエキストラで使ってもらえたりしました。で

大学院美術研究科 ▶ 美術専攻
美術学部教養部会 教授



学生と一緒に続いていくものが
作ればいいかなと思います

長田謙一

(ながた けんいち)

《主な担当科目》

- 教科教育法の研究
(美術・工芸)
- 美学芸術学研究
- 美術文化政策論
- 美術史特論
- 教職実践演習(中・高)
- 芸術学・美術史研究

1971年 東京芸術大学
芸術学科卒業
1974年 東京芸術大学大学院
美術研究科修了

《職歴》

岩手大学/千葉大学/首都大学東京

《主な社会的活動》

- 芸術学関連学会連合委員
- 美術科教育学会理事

● 公益社団法人日本美術教育
連合評議員

● 東京都芸術文化評議会専
門委員

● 財団法人千葉県文化振興
財団理事

● 国立美術館等各種委員

『日本近代デザイン史』(共編著)

『戦争と美術・表象 20世紀以
後』(編著)『テートの美術館鑑
賞術』(共監訳) 論文『原田直
次郎(騎龍観音)と(帝国日本)
の寓意』『パウハウス、閉鎖後の』

『(美術/教育)の扉をひらく』等。



芸術学/美術教育学の研究と実践

—これまで幅広い分野について研究されていますが
具体的にはどんなことを？

これまで岩手大学、千葉大学、首都大学東
京と国立の大学でいろいろな分野の学部や
大学院に属してきましたが、初めて芸術学
常勤教員とさせていただき、非常にうれし
く思っております。ヘーゲル美学の研究から出
発しましたが、ある段階から社会の総体を意
識しながら近現代美術/デザインの個別問題
に理論的・実践的にとりくみ、その個別問題
で得られた新しい光で社会総体を逆照射す
るというアプローチをとることになりました。ユ
ーゲンツシューレ、表現主義、美術館、
戦後アメリカ発のデザインと現代美術、また
近代日本美術・デザインの諸問題等です。しかし、そのよ
うな私のアプローチにとって(美術/教育)は諸問題総体
の結節点として位置づきます。現行小学校学習指導要領





2013年度、本学に5人の新たな先生方が加わりました。本学の学生になったばかりの新入生と同じように、先生も新しい環境に夢や希望を持たれるようです。今回の特集では、5人の新任の先生に、これまでの経歴や経験、専門分野、学生に期待することなどを伺いました。先生方皆さん、さまざまな経験をお持ちで、思わず吹き出してしまうような面白いお話もあれば、背筋を正してよく考えて聴かなければならない示唆に富んだお話もあり、興味は尽きません！ 限られた誌面で全てをお伝えできないのは残念ですが、それでも先生方の熱い気持ちが伝わってきます。

も、いざその場になると怖くて音が出せないですよ。そういう環境やブロの音にまったく慣れていない。最初は、どこをやっているかもわからないほどで、周りは皆上手い、そこへ投げ出されていったらどうしたらいいんだ、と思いました。それで奮起して、自分の音楽家人生が始まったと思います。学生時代は、教職課程も履修して、教育実習にも行きました。あまり気はなかったのですが、1年間非常勤講師として高校で教えました。とても中学・高校の先生として教えることを仕事にしてこれからやっていくことに自信が持てず、自分のフルートに専念しようと考えました。

25年ほど前、大学を出て10年くらいしてから、名芸に非常勤講師として来させてもらっていましたが、自分の頃とくらべ、全然違ってましたね。全ての楽器が揃っていたし、学生数も多かったですね。厳しくしてもついてきてくれた時代で、やりがいがありましたね。

自分自信の可能性を信じて

一恵まれた環境にいる今の学生はいかがですか？

学生のレベル差の開きが大きいですね、中間層が少ない。上位にいる学生は、他の有名大学と変わらず、全国規模のコンクールでベスト15に入るような、その年のトップクラスに入れる優秀なのがあります。ですから、全体のレベルを引き上げるために底上げが必要だと思っています。優秀なのを育てるだけではダメで、全体がしっかり上がっていくように徹底して注意するようにしています。今の学生たちは、本当にいい子は昔と変わらずハングリーに学ぼうとしている、でも、そうじゃない子たちが楽なほうを選ぶ。私個人は嫌われてもいいから、こういった子が変わるように、毎回、毎回、話をしていこうと思っています。『教育』の育てるは『待つこと』だと思えます。ただ待つじゃなくて、耕して、水やって、日当たり良くして、虫付かないようにして、じっと待つ、それだけのことをやって待つことだと。そうして実を結べば、そういう人間が増えて環境が良くなっていくはず。絶対にあきらめないで、不真面目な学生でも心を立て直してやりたい。親になった時に青春時代に頑張ったと言える何かがあれば、子供達に対して、きちんとした事が伝えられると思います。

一学生に学んで欲しいことはどんなことですか？

この学校に来ている学生なら最低限のレベルをクリアしてきているし、センスも持っていると思います。自分の可能性を信じて努力していけば、絶対に良くなります。1日4時間練習すれば誰でも上手くなれる。僕自身、努力が嫌いな人間ですが、毎日3、4時間は練習してきました。夢と希望を忘れるなど言いたいです。私もあきらめません。教える側が、夢と希望をあきらめちゃいけないと思っています。

高木直喜フルートリサイタル
with Naoki Takagi Flute Recital
2012年5月6日(日)
ザ・コンサートホール
入場料:全席自由 3,000円

■高木直喜還暦記念
高木直喜フルートリサイタル
2012年5月6日 ザ・コンサートホール

(図工)の作成過程にも関わらせていただきました。

1984~5年に文部省在外研究員としてドイツに滞在した折、ドイツのモダニズム美術・デザインとその教育研究とは別に、市民に開かれた美術館作りの活動を行っている団体に接し感銘を受け、日本でも美術館で子供や市民をつなぐ活動をもっと意識的にやるべきであるという論文を書き、活動を始めました。日本の美術館教育活動の走りの一つになり、1993年には「日本・ドイツ美術館教育シンポジウムと行動」を主催する実行委員会のまとめ役を務め美術館ワークショップ等に参画するようになりました。さらに、1987年のドクメンタとミュンスター彫刻プロジェクトでアートが街に展開するのにふれて衝撃を受け、千葉県佐倉や芝山、東京のIZUMIWAKUや代官山同潤会アパート等のアートプロジェクトに参画するようになります。2000年には千葉大学の学生たちと、美術館と街と千葉の小学校や中学校等をつないだアートプロジェクト「WICAN」を始め、首都大学東京で日野市、東京都と連携してアートプロジェクト「ひののんフィクション」を始め、いずれも私の後任の方が引きつぎ一層発展させて下さっています。近

年の研究では、まず、2009~10年、科研基盤(B)(1)「プロパガンダと芸術」、2011~13年科研基盤(A)(1)「社会システム(芸術)とその変容」の研究代表者を務めています。後者は「芸術」をその生産・評価・伝達・売買・受容・教育等の総体からなる(システム)として捉えてグローバル化の進行する現代のアートの在り様を理論化しようとするものです。これと関連しながら(美術/教育)の再検討(これは『美育文化』誌に4年間にわたって連載してきました)を進めています。

君たちが頑張れば、新しい歴史ができる

一これまでにくらべ本学の学生はいかがでしょう？

学生たちは、真面目で熱心で、授業の食いつきもやろうとしている志も高いです。むしろ、学生たちのそういった気持ちをもっと大きく盛り上げていく大学に張るべきだという感想を持っています。大学が幾分かおとなしくなっていて、学生をもっと信頼して学生のチカラが存分に発揮できる、そういうことをやっていくべきだと思います。学生にも、さらに高い望みをもって、ギラギラするくらいの

情熱的な、そういう志でやってもらいたいと思います。熱心に勉強しようと思う学生が、ここで勉強を続けていくという文化がまだ弱いように見られることが残念です。学部、大学院を通して、本学で学び制作研究することが、他のどこにもまけない新しく高い水準の可能性を開くようであれば、優れた学生がたくさん本学に集まってくることでしょう。

一これからどんなことをやろうと思いますか？

学生が主導するアートプロジェクトをやってきて、学生が頑張ればどんなにめざましいことができるのか経験してきました。学生、教員、大学のいずれも、そこから得るところが大きいのです。ここでもそういうことができたらいいなと考えています。そのことを含めて、本学が21世紀の日本/世界の先端をひらいていける力と魅力を持つようになるように、私自身も微力を尽くしたいと思います。しかし、学生たちこそがその新しい歴史をひらいてくれるものと、信じています。

本当に自分のやりたいことを
じっくりと見つけてほしい



加藤 聡一

(かとう そういち)

《主な担当科目》

- 子ども学総論
- 教育方法論
- 教職実践演習(幼・小)
- 子ども学特論
- 子ども学特演
- 子ども発達学特別研究

《経歴》

京都教育大学
(学部・大学院修士課程)
京都大学大学院
教育学研究所(後期博士課程)
1997年 京都大学 助手
1998年 京都大学大学院 助手
1999年 東京理科大学
～2004年 専任講師
2005年 武蔵大学
～2006年 専任講師

2007年 武蔵大学
～2012年 准教授

《業績》

2006年
編著『あつ!こんな教育
もあるんだ 学びの道を
拓く総合学習』新評論
2007年
「14歳 心の中に秘密の
小箱」「社会的自立への
道程」(応用心理学会編
『応用心理学事典』丸善)
2010年
「民主主義の教育思想-
テューイ」(山崎英則ほ
か編『シリーズ現代の教
職 3 西洋の教育の歴史』
ミネルヴァ書房)

ウダウダと過ごすことも大切な時期

—先生はこれまでどんなことをされてきたのですか？

出身は新潟なんですけど、京都の大学に行って、留年したり聴講生だったりして、就職するまで何年もかかっているんです。自分自身、いろいろ迷っていたんでしょうね。なにをするかよくわかっていなくて時間がかかりました。中学校の国語の免許を持っていますが、漢文が2単位足りなくて高校の免許が取得できてないんです(笑)。高校の免許を持っていれば、おそらく高校の先生になっていたと思いますよ。大学と大学院修士でも1年ずつ留年して、その後、京大の大学院の博士課程に入れてもらって3年、さらに助手で、京都には20年近くいました。そこから研究者という感じでしようか。東京へ行って、東京理科大に6年、武蔵大学に8年間いました。どちらも、教職課程を教えていましたが、専門ではない意味で「気楽」な反面、採用試験に何人通るかというプレッシャーがありました。ただ合格するだけじゃなくて、ちゃんと志をもった先生になって欲しいなという気持ちがありました。

先生というのは
感動の多い仕事



久保 博満

(くぼ ひろみつ)

《主な担当科目》

- 国語(書写を含む)
- 国語科指導法
- 保育内容演習 言葉
- ゼミナールI

《職歴》

名古屋市立御園小学校教諭
名古屋市立大江中学校教諭
名古屋市立神丘中学校教諭
名古屋市立南光中学校教諭
名古屋市教育センター所員
名古屋市教育センター指導主事
名古屋市立西養護学校教頭
名古屋市立新郊中学校教頭
名古屋市立平針南小学校校長
名古屋市教育委員会学校
教育部指導室指導主事
名古屋市立北中学校長

名古屋市立片平小学校長
名古屋市教育事務職員
(生徒指導相談員)

《研究業績》

特別支援教育に向けて障害
児教育の果たす役割に関す
る研究 名古屋市小・中
学校長会
未来を切り拓く心豊かた
くましい日本人を育てる中
学校教育 東海北陸中学校
校長会
未来を切り拓く豊かな人間
性と創造性を備えた日本
人を育てる中学校教育 東
海北陸中学校長会

学校はファミリーだ

—今まで小学校と中学校にお勤めだったわけですね？

経歴を見ていただくとわかりますが、大学を卒業して以来、小学校と中学校の教員をやってきました。それに前後して、養護学校、名古屋市の教育センターに勤め、そして、小中学校で教頭、校長を務めました。大学での研究ではなく、子どもたちとの授業を通して教科研究、実績を積み重ねてきました。ここに来る1年前は、教育センターの中にある生徒指導相談員の嘱託員ですね。不登校の子どもを家庭訪問して、子どもや親御さんのカウンセリングをやっていました。振り返ってみると、偶然ですが荒れている学校、生活指導が大変な時に多く赴任したように思います。やんちゃな子どもとの生活が多かったですね。荒れているときは警察の方にも学校に来ていただくこともあり、実に様々な人と様々な経験をしました。こう言うと、これから先生になるという学生の中には、不安に思う人もいるかと思いますが、学校の現場は温かいものです。実績を重視する企業とは異なり、先生同士が助け合うファミリー

自分のやってきたことを
しっかり伝えたい



吉村 美由紀

(よしむら みゆき)

《主な担当科目》

- 相談援助
- 保育相談支援
- 社会福祉
- 生活と福祉
- 保育所実習
- 教育実習(幼稚園)

《職歴》

●児童養護施設 職員
●児童家庭支援センター
職員
●児童相談所 嘱託相談員
●名古屋文化学園保育専門
学校 教員
●日本福祉大学社会福祉実
習教育研究センター
●名古屋芸術大学 非常勤
講師

- 金城学院大学 非常勤講師
- 東海学院大学 講師

《学位》

●日本福祉大学大学院
福祉マネジメント専攻
(修士)

《社会活動》

●全国児童養護問題研究会
運営委員 編集部部長
●特定非営利活動法人 こ
どもサポートネットあ
いち 理事
●『子どもと福祉』(明石書
店)全国児童養護問題研
究会・全国児童相談研
究会機関誌編集委員

本当に辛いことが相談できない

—多くの施設や支援センター、相談所にお勤めして
きたんですね

大学を卒業し、岐阜市にある日本児童育成園という児童
養護施設に勤めました。親がいない、或いは虐待を受けた
子どもたちと一緒に生活する場所で、下は1歳半から上は
18歳まで、16人の子どもたちを職員4人体制で見ます。
一緒に生活することを重視し、食事も朝昼晩すべて職員が
作り、文字通り寝食を共にして生活全般を支援します。ま
た、同じ社会福祉法人が運営する、子ども家庭支援センター
でも働きました。地域の子育て相談、子育て短期支援事業
(ショートステイ、トワイライトステイ)というので、一人親
家庭の親御さんなどが緊急的に入院したり、出張したり、
1週間程度泊まりで預かって、支援することをやっています。
そのなかで虐待の心配のある親御さんの相談を受け
たり、児童相談所などと連携をとって親子を支える事も時
にはありました。これらを8年勤め、その後、名古屋市の
児童相談所で嘱託相談員をやりました。電話相談と面接相

一学生たちの様子はいかがですか？

子ども学総論という1年生の必修科目ですけど、一見すると小さな子どもの講義かなと思われるかもしれませんが、小学校4年生くらいから入って、中学生、高校生、思春期、青年期とやってきて、この間大学生時代に入りました。学生たちには、学ぶことを自分の人生に重ねていて欲しいという思いがあります。これまでの教育の中でいろんなダメージを受けてきている学生が多くいると思うので、自分の人生を修復しながら、子どもと出会ってもう一度生き直しながら、資格試験の可否を気にする前に、自分の人生を回復させて欲しいと思います。今、授業を受けている学生を見てみると、3割くらいの学生は大学へ来てうれしくてうれしくてしょうがない感じです。サークルに入ったり、生まれて初めてバイトしたり、髪を染めたり、いろんなことで3割くらいの学生が大騒ぎしています(笑)。ちょっと騒がしいですけど、大学時代を含む17歳から22歳までの青年後期のところは、子どもから大人に変わるというすさまじい時期を過ごしたあとで、基本的には疲れているんです。だから、この時期はいかに休ませるかというのが

です。特別支援学級を受け持つことになったらやるだろうかと相談に来た学生がいました。まずは、やってみて考えれば良いと答えました。学校は温かく支えてくれるからとアドバイスをしました。子どもと接する保育士や先生という職業は感動の多い素晴らしい仕事です。

一初めて大学生を教えることになりましたが、いかがですか？

学生たちは、素直で素朴。今までに受け持ってきた小中学生に似ていますね。ただ、これまでにリーダーシップをとってきたことのない学生が多いのではないかと感じました。暴れたりするようなことはなく、大人しく控えめな生活を送ってきたのではないかと思います。グループを引っ張っていくというよりも、地道にやってきたという感じがします。心の内に秘めた物があるのに、ちょっと恥ずかしいのか出し切れていない気がします。「もっと自分をアピールしろ」と言っています。授業では、ぬいぐるみを相手に小さな子への読み聞かせの実地練習や、ゼミで、これから夏のボランティアでキャンプに行くこともあるので、キャンプファイヤーの進行を司会からなから、やってみたりして

談で、子どもに関する様々な相談について、最初に受けつける係に所属していました。かなり重篤なケースの相談も多く、本当に困っている親御さんたちは、自分から声にできないことがあるとわかりました。頼れる人がいなかったり、孤立していたり、普段、普通に保育園に通っている親御さんでも、本当に辛いことは保育士さんに言えなかったりだとか、学校の先生にも上手く言えてなかったりとか、表面的には解らなくともとても孤独な状態に置かれています。そういう相談経験をもとにしながら、大学院に通い、今まで経験した事例をまとめるという研究をしてきました。

無邪気に笑えない子どもがいる

一学生たちにはどんな事を知って欲しいですか？

子どもって、無邪気、明るい、元気いっぱいというイメージがあるかと思いますが、私が関わってきた子どもたちは、環境が整っていなかったことで無邪気さをなくしてしまったり、笑顔になれない、喜怒哀楽を失ってしまっている、大人に対していきなり『あっち行け』だとか、『バカ、死ぬ』という言葉投げかける子どもだったりします。そ

教育の基本なんです。疲れているにもかかわらず、新しいことをとどんやりやりたいから慢性的なエネルギー不足状態で、何をやっても不十分だし、何をやっても叱られやすい時期です。何事も上手くいかなくてウダウダと過ごすことを、大人は良くないことだと言いますが、そういうウダウダしている集団というのがこの時期はすごく大切で、たわいもないことをしていた集団が、いずれテーマを持っていくと切磋琢磨する集団に変わっていくと思います。

卒論とゼミは、最強の就活になる

一学生たちに望むことは？

卒論のテーマを、自分の人生と就活をいかに重ねているか、そういう選択をして欲しいです。偽物のテーマじゃなくて本物のテーマを選ぶことです。「至誠」ですね。今は、ゼミや講義と就活が別になりがちですが、本当に自分で調べたいことは、本を読むだけじゃなくて、その人に会ってみたくなるし、そこへ行ってみたいくなるものです。それは、実は最強の就活で、本当にやりたいことがある学生が会社訪問しているようなものです。会社訪問だとルールから外

れます。やり始めると、一人一人がいい個性を出してきます。オーバーすぎるくらいに出して欲しいですね。やっているうちに出来なかったことが出来るようになってきます。もっと自分に自信を持ってアピールして欲しいですね。自分の良さを発見し、表現できるようにしたいと思っています。もう一つは、大学生なら本来は、講義を聴きながら自分で勉強していくのが当然だと思いますが、目の前の学生を見てみると、ある程度は指示をしてやっていかなければならないかなと感じています。勉強のやり方が分からない学生が何人かいます。しばらくの間は苦労があります。

学ぶことの楽しさを知って欲しい

一学生たちにどんなことを覚えて欲しいですか？

「学ぶことは楽しい」ということです。このことが分かっていないと学校に行っても子どもに十分伝えられません。困った時や、思うようにいかなかった時、失敗したと思う時には、まずは自分で勉強して解決していくことです。それがとても大事なことで、また、それが楽しいし、そのことが仕事だということを分かって欲しいと思います。

いう子どもたちも実際にいるということを学生たちに伝えたいです。子どもたちが表面的に言っていることだけじゃなく、その心のなかに何を隠しているのか、どうしたら笑顔になれるか、無邪気な気持ちを取り戻せるのか、考えて欲しいと思います。また、学生たちには馴染みの薄い社会福祉ということができるだけ身近に感じて欲しいとも思います。子どもたちのSOSやサインをくみ取ったり、寄り添ったりできるようになって欲しいです。子どもに手をあげてしまう親御さんに対しても、憎むのではなく、身近に接する立場、お母さんにも寄り添って欲しい。理由もなく子どもを叩いてしまうことはありません。お母さんの辛さやなぜそうしてしまうことになったのか、家族背景も時々見極められる力を持って欲しいと思います。

一2ヶ月経ちましたが、学生たちの様子はいかがですか？

すごく愛らしい、とっても可愛いです(笑)。人と接することが好きな学生が多いように感じます。3年生の学生なんですけど、授業内で実践的にロールプレイをやってもらったんです。相談を受けるだけでなくお母さんの役もやってもらったんですが、一所懸命取り組んでくれています。他

れた行動は追い払われてしまいますが、研究でどうしても知りたいとなると、見せてくれたり裏側の話をしてくれたりします。教職課程のときは、特に私立なら、本当にこの学校で働きたいというところを探せと言っていました。仮に愛知県の小学校の先生になりたいのだったら、愛知県に愛情があるでしょう。愛情があれば相手のことを知りたくなり、「(愛知)〇〇小学校でやっているこういう授業とか、児童館のこういう活動とか、調べたり見に行くでしょう。面接で、どんな先生になりたいんですかと聞かれた時に、一般的にこうこうですとうわつらのことを言うよりも、〇〇小学校でやっているああいう授業をやりたい、と具体的な話ができます。相手のやっていることを語ると、たぶん、面接官というのはだいたいプロジェクトを推進したような人がやっているはずで、話しも弾みし一歩踏み込んで実際に行ってきたとか、給食食べましたとか、そうすると落としようがないでしょう(笑)。本当に自分のやりたいことがゼミや卒論に繋がり、同時に就活の時にも最強の蓄積になっているような、そういったことをウダウダする中でじっくり育ててほしいと思います。

「教える」という仕事は、自分自身が常に学ぶことであり、そうして力を身につけていくことを実感して欲しいと思います。大学生活の中で、是非、学ぶことの楽しさを知って欲しいです。



■読み聞かせの練習
ぬいぐるみを子どもに見立て、読み聞かせの練習。ただただ読み始める学生も、練習すらすらに上達する。本の内容にあらかじめ感動することも。



■ゼミナールの授業風景
キャンプのアトラクションを想定して実施。司会進行、音楽、出し物など、子どもを楽しませよう練習。やり始めると、照れている学生も熱心に取り組む。

の大学よりもノリが良くて、照れずに躊躇なく喜んでやってくれています。感想もいい視点を持っていますし、現場に出る前に、いい体験できてると思います。ゼミでは、関心のある児童養護施設、障害児の統合保育施設などにお邪魔し、聞き取りや、体験学習をすすめています。学生たちにもっと意欲を持って勉強できるようにつなげていきたいと考えています。実践現場の人たちとの繋がりを大事に、地域に溶け込んでいって欲しいですね。いろんな人と出会って、大学にいる間に、こんな人になりたいというモデル像を作り上げていって欲しいですね。



■施設で育った子どもたちの語り
白石書店



■しあわせな明日を信じて
(2) 作文集 乳児院・児童養護施設の子どもの声
3年後の便り
福村出版



■どうしようもないとき!
児童養護施設の若き実践者のために
三学出版

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism

<http://www002.upp.so-net.ne.jp/houran-kai/index.html>



個展「礼」展作品1998



パフォーマンス 1998

書ハ美術ナラズ？
書道は日本のアートだと思う。

茶室に招かれたとき、あるいは古刹で、もっと身近なところでは時代劇や漫画の題字で、私たちは「書」を目にする。昔の人は字が上手かったと感心したり、味のある題字に心奪われたり、書にとりわけこだわりのない人でも、それぞれに何かしらの感想を持つのではないだろうか。書道は芸術であると、当たり前のように思う。しかし、本当にそうであろうか？ 芸術大学である本学には、書道を教える専門のコースはない。本学のみならず、日本中の芸大で専門的に書道を教えるところはないそうだ。芸術のはずなのに芸大では扱われていない。これが書道の置かれている立場なのだという。

「僕自身、高校時代にとっても悩みました。小中学校では書写を誰もがやりますね。高校へ入ると書道というふうに名前が変わります。でも何故名前が変わるのか、何故それが芸術なのか、誰も教えてくれない。自分のやりたい「書」の道を巡り考えた。高校では書道は芸術選択の範疇である。ならば芸術の分野であるはずだ。しかし、書道を専門に教える大学はない。書道は自己表現たり得ないのか。「美術大学に入りたいという気持ちがありました。芸術がやりたい、自己表現がしたい、という気持ちです。書道というものをやっぴこ、芸術分野の書道というのに進もうと思ったわけです。でも、ひとつもないんです」

大学は、洋画科へ進んだ。書道は芸術大学ではできないと思っていた。



しかし、「書」への思いは止まらなかった。高校時代から気になっていた書の置かれている状



「世界」(国連インターナショナルスクール)1999

況を根本から調べ直した。何故、書は芸術と分離したのか。書も芸術も、よく知らないまま、批判することなどできないという思いが行動に変わっていった。筆を使うことが日常だった時代からペンや鉛筆が登場した時代を経て、明治時代に今でいう「芸術」としての書道が始まり、そして表題にもある「書ハ美術ナラズ」という洋画家 小山正太郎と思想家 岡倉天心の論争に行き着いた。岡倉は、書は美術でないとする小山に反論するものの、自身が設立に関わった東京美術学校(現・東京藝術大学美術学部)に書道科は置かなかった。こうして書は、芸術から外れ、曖昧なまま取り残されていったことがわかった。

学生時代は、書の研究と同時に、さまざまな分野の芸術に触れることができる機会でもあった。美術やデザインを専攻する友人との交流。芸術、アート、Artの違いとそれぞれの価値観を肌身で感じた。「書道をもう一度、捉え直してみ

書道も他の分野でも、一つのことを専門的に知っているだけでは成り立たなくなってきています。デレクションやプロデュース、総合的なことを考えてやっていかないと社会に通用していきません。専門性の他にもいろんなスキルを持っていないと成り立たなくなっていることを強く思います。



Vol.49 NUA-OB 横山豊蘭

(よこやま ほうらん) ■
書道家アーティスト

- 1973年 静岡県生まれ。
- 1996年 本学美術学部 絵画科 洋画2コース 卒業。
- 2001年 杏林大学社会科学部大学院博士課程前期修了。
- 2013年 名古屋芸術大学美術学部「書道アート」講師。
- 1997年 アートコンペティション「アーバネート#6」(大賞受賞)、テレビ、雑誌など様々なメディアに登場。国内外の美術館、ギャラリーなどの多くの企画展に参加。アート、書道、芸能、広告、デザイン、教育、など幅広い分野で活動している。
- 1998年 「臨書」展(アメリカ、ミシガン大学ギャラリー)。
- 2007年 「ドコモダケアート」展(アメリカ)、日中国際交流「形式と拓」展(中央美術学院美術館/中国 北京市) 他。
- 2011年 「アジアアメリカンフェスティバル」(アメリカ) 日本部門 招待作家。
- 毎日新聞主催「富士山学生書写書道展」(最優秀団体賞受賞2006年～現在)。

書は書家の高木聖雨先生に師事

オノミシロ「元氣はつらつら?」(大塚製薬)、新日本石油(ENEOS)「Your Choice Of Energy」、[スマステーション] (テレビ朝日) 新聞広告題字、「EDWIN GO GREEN!!」雑誌広告。
「あのもんたのニッポンの品格」(TV東京) などTV番組、商品ラベル、書籍ほか、多くの題字作品。



「GUNDAM-来たるべき未来のために」展作品2005



ボルノグラフィティ CDアルバム「WORLDILLIA」(ソニーミュージック) 「ヘリグリー」1998 今村耕司氏蔵

ようと思いました。アートという観点から書道を語る事ができないかと」 こうして書道パフォーマンスが始まった。「作品だけでなく、パフォーマンスを見てもらうことで大きな輪ができてきました。表現が伝わることによって今の形になってきていると感じています」 大学でアートと書道について考えたことが、後のステップへとつながっていった。



4月に美術学部の専門選択科目で開講された「書道アート」は、191人もの学生を集め大盛況となった。しかし、いまだ専門に学ぶことのできるコースがないことには変わらない。書道はまだまだこれからの領域である。今、私たちは、新たな芸術領域が確立されようとしている現場に立ち会っているのかもしれない。

勉強を教えるのが面白いです。



Vol.50
NUA-STUDENT
中広実夢
(なかひろ みゆ)
人間発達学部 子ども発達科
2年



人間発達は、人数も多くなくみんな仲良しです。高校時代の知り合いとかはいないんですけど、入学式の前にオリエンテーションがあって、そこで友達を作ろうとそういう意気込みで参加しました。

そこで実際に先生の話の聞いたり、子どもたちと接して小学校の先生がいいなって。勉強を教えるのが好きだから、楽しいんです。じつは、実際に入学するまで3つ免許が取れることを知らなかったんです。大学を選ぶ時、高校の先生の勧めで受けたので自分ではあまりちゃんと調べてなくて、入ってから3つとも取れると知ったんです。

-それで、小学校がいいと変わったんだ。勉強が好きなんだ!

教えるのも、自分で勉強するのも好きですね。やったらやった分、結果が出て良くなるじゃないですか。それが楽しいです。高校の頃は数学が好きで、今の大学の勉強はちょっと難しいですけど、心理学とか面白いですね。まだ教養科目が多くて先生になるための授業とちょっと違うんで早く専門科目をもっとやりたいって思ってます。

-小学校の実習はどうだった?

実習は行ってみて、すごくためになりましたね。小学校の1年から6年までって長いですね。毎日、違う学年の子どもたちを見させてもらって、いろいろ参考

になりました。私は、3、4年がいいなって。1、2年は園児みたいに幼くて、体力的にきつかったですね、体に飛び乗ってきて(笑)。6年生もなると今度は大人みたいで、男の子は恥ずかしがるし、女の子も大人っぽくなってきます。3、4年生がいい感じ

-全部の免許取ろうと思うと忙しいでしょ?

たしかに授業はいっぱいですけど、バイトもやってますし、時間を作って友達とちょこちょこ遊びに行ったりもしてますよ。

-バイトは何をやっているの?

ビデオレンタル店と学習塾の先生です。

-やっぱり先生なんだ!

私も通った塾なんです。塾で、教える先生はみんな年代も同じくらいで、高校で一緒だった子もいて楽しいんです。中1から中3までを教えているんですが、あまり勉強をやる気のない子も来るような塾なんです。それで、まずは勉強が好きになってもらうことからなんです。やりがいがありますよ。

-保育士、幼稚園、小学校、何の先生になりたい?

資格は、保育園、幼稚園、小学校も全部取れるように授業を取っています。小さい頃から保育士になりたいと思っていて、中学や高校の頃の職場体験でも保育園へ行っていたんです。でも、最近になって小学校がいいかなって思うようになったんです。

-なにかきっかけがあったの?

1年生の時の2月に、自由参加なんですけど教育実習のための実習っていうのがあって、それで小学校へ行っただけなんです。

中広さんに聞きました。

大学は忙しい?

06:30 起床
朝風呂派なので、お風呂にサッと入って出かけます。

07:30 家を出る
通学は自転車乗って50分くらい。

8:30 学校到着
空き時間はなく、つめつめで授業があります。放課後は、友だちと話したり、たまに寝たかったら寝るの予習したり...

12:10 昼食
友達と学食でお弁当を食べます。

13:10 講義
週に1日ですが、授業がおわり、サークルまでの時間ピアノの練習をしたり、AVライブラリーでDVDを観たりしています。Disneyが大スキです。

01:00 就寝
明日の準備などして就寝

ファッションチェック!

00:00 帰宅
録画してあるドラマをみたり、ペットと遊んだり、コロコロします。

16:30 講義が終わったらすぐ帰宅
生徒と接すると、つかれても充実をもらいます。1日ミーティングがあり、一緒に働いている先輩から毎月いい話聞けて、とてもいい経験になっています。

白と花柄が好き。ワンピースが多い。

持ち物検査

COACHの財布はお父さんからのプレゼント。大事にしています。

実習の書類を書くのに使うお気に入りのペン。印鑑は塾で使ってます。

お小遣い・アルバイト

- アルバイト 7万円/月
- アパート等家賃 0万円/月 (実家から通学片道約50分)

バイト代の使い道は“食費!”食べるのが大好きで、友達といろんなところへ出かけます。自宅から通ってますから普段の食費じゃないですよ。

Lecture

[レクチャー]
特別講義や講演会など

インテリアデザイナー 島崎信氏による特別講義 「北欧の椅子・日本の椅子」 が行われました

2013年5月11日(土)、本学西キャンパスのB棟大講義室で、インテリアデザイナーの島崎信氏による特別講義が行われました。これは、デザインを通して社会を読み解き、社会の中におけるデザインの意味を考えていくことを目的に、さまざまな分野のデザイナー、アーティスト、研究者などを招いて行われるデザイン学部の公開講座「デザインと文化4」のプログラムです。

島崎氏は、1956年に東京藝術大学工学科図案部卒業後、東横百貨店(現・東急百貨店)に入社。1958年にJETROによる産業意匠研究員の一人として日本人で初めてデンマーク王立芸術アカデミーに留学。家具デザイナーのオーレ・ヴァンシャーより家具作りを学びました。帰国後は国内外でインテリアやプロダクト商品のデザインに関わる傍ら、留学で得た幅広いデザイン見識をもとに講演、執筆活動など多岐に渡り活躍されています。現在も武蔵野美術大学名誉教授や東京・生活デザインミュージアム(LIDEM)の理事

長も務められています。

講座前半では、島崎氏がデンマーク王立アカデミーへ派遣された当時にふり振り返り、バリカンチェアで有名なデンマークの近代家具デザイナーの一人フィン・ユールとの交流や、フリッツハンセン社でのエッグチェア開発現場のお話しなど、北欧デザインの名作椅子が生まれた当時の貴重なお話しをはじめ、デンマークやスウェーデン、ノルウェー、フィンランドといった北欧4カ国から、なぜこれほどまでに多くの優れた家具デザイナーが生まれたのかを、地理的・地域的な背景を踏まえて解説されました。また、名作椅子を考察する際の指標として「名作椅子の8つの要素」(以下参照)なども紹介されました。

■名作椅子の8つの要素

- 1「機能的である」(座りやすい)
- 2「丈夫である」(傷みにくい・壊れにくい)
- 3「重すぎない」(移動がし易い・適度な重さ)
- 4「生活の道具としての美しさ」(表層的なカッコよさに走らない)
- 5「価格」(バランスのとれた値段)
- 6「発表後の持続性」(ロングライフ)
- 7「長く使われているか」(ロングユース/修理や補修への対応)
- 8「エポックメイキング」(新技術・新素材などが生まれた記念碑的な作品)



- 1 1 1
- 2 1 1
- 3 1 1
- 4 1 1
- 5 1 1



島崎氏は名作椅子をより深く理解するためにも、椅子が生まれてきた時代やその背景、デザイナーの経歴、現役の道具として使われているか、デザイナーのイメージを実現するために欠かせない材料、職人、技術とそれらを併せ持つメーカーにも関心を寄せて欲しいとしました。

講義後半ではデザイナー別に時代を彩った名作椅子の数々を紹介。デザインの特徴や構造、使われている優れた技術や製造過程でのエピソードなど、名作椅子の持つ魅力を丁寧に解説されました。この中で「椅子の良し悪しは肘掛の裏で分かる」と言う話がありました。「普段見えないところ、でも人間の感覚で最も敏感な指先が普段触れるところの良し悪しがとても大切です。」これは、恩師であるオー

レ・ヴァンシャーから教わったそうです。

島崎氏は、その恩師の言葉を借り、「これまで多くの椅子が試行錯誤の末にこの世に生み出されてきました。それは、その時代の潮流や好み、技術、市場性などの兼ね合いでできています。100年前に生まれた物が今日の条件に合っている訳ではありません。今日の時代性に合わせ、要素を組み立て直す感性を持つことは、優れたデザイナーの資質の一つです。」とし、伝統の中にこそ新しいアイデアがあることを伝えました。

この講義終了後には、西キャンパスX棟に場を移してティーパーティが催されました。会場では受講者と楽しく歓談され、講義で紹介しきれなかった名作椅子のお話で交流を深められました。

International exchange Activity

【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との
交流活動など

2013年度前期 交換留学生の ウェルカムパーティーが 開催されました

4月17日(水)、本学西キャンパス学生食堂のティールームで、2013年前期に来学した交換留学生のウェルカムパーティーが開催されました。

この春交換留学生として来学したのは、イギリスのUniversity of Brightonから4名、Falmouth Universityから1名、イタリアのNuova Accademia di Belle Arti Milano

から1名、合わせて6名でした。

最初に、国際交流センターの加藤多美子氏から、留学生たちの紹介が行われました。氏名、出身国、大学名と、本学における所属の学部とコースなどが紹介され、その後、本人たちの簡単な挨拶がありました。憶えだての日本語で挨拶する微笑ましい姿も見られました。

加藤氏をはじめとした国際交流センターの教職員は、留学生たちの頼りになる相談役で、彼らの留学生活が充足するように様々な面での相談や支援を担当しています。今回留学してきた6名はいずれも女性で、ブライトン大学のLauren Hecklerさんは洋画2コース、Sarah Cardenさんはアートクリエイターコース、Alex Pattersonさんはメタル&ジュエリーコース、Anne Gonzalez Nouguchiさんはアートクリエイター(立体造形)



- 1 留学生を紹介する加藤多美子氏(右から2人目)
- 2 前期交換留学生のみなさん(1名は遅れて参加)
- 3 歓迎の挨拶をする和田義行国際交流センター長(中央左手)
- 4 歓談する留学生と本学の学生たち



コースに在席します。ファルマス大学のGabrielle Kassabさんは日本画コース、Nuova AccademiaのLara di Ferdinandoさんはデザイン学部在席し、スペースデザインを学びます。

この後、国際交流センター長の和田義行教授から歓迎の挨拶が行われ、懇親会に入りました。

飲み物と軽食を囲んで、留学生

と本学の学生たち、また、教職員がすっかり打ち解けて和やかに歓談する場面が見られました。後期に、ブライトン大学などに留学を希望している日本人学生にとっては、来日した留学生から大学の実情を直接聞けるチャンスでもあり、積極的に話の輪のなかに入っていました。

News & Topics

ニュース&トピックス

人間発達学部

小西貴士氏による文化創造セミナー「子どもと森へ出かけてみれば」が開催されました

2013年5月25日(土)、本学東キャンパス1号館で、人間発達学部が主催する文化創造セミナーが開催されました。講師にお招きしたのは森の案内人で写真家でもある保育者の小西貴士氏です。小西氏は公益財団法人キープ協会に所属し、清里高原で「キープ森のようちえん」と「清里聖ヨハネ保育園」の子どもたちを中心に、森の中で遊びなどを通して触れ合いながら、その様子をカメラに納めています。著書には『子どもと森へ出かけてみれば』や『小さな太陽』（いずれもフーベル館刊）などがあります。

セミナーでは、小西氏が撮影した子どもたちの写真に、その子どもたちにまつわる素敵なエピソードをご本人自らが朗読して添えられました。「このセミナーに集まってくれた名古屋芸術大学人間発達学部の学生の皆さんは、将来子どもたちと過ごす場を目指している人ばかりだと思います。子どもの世界に真直ぐな眼差しを向けている学生みなさんに、今日お見せする写真の中の子どもたちと出会ってほしかったんです。」と今日のセミナーの目的を受講者へ伝えました。

そして、「僕から何かを学ばなければいけないとか、何を伝えようとしているのかといった先入観

を持たず、今日は映画館で映画を楽しむようにリラックスして、最後まで子どもたちの画像を一緒に見て感じてください。僕は子どもたちの物語を読む係としてこの会場にお邪魔しているだけです。子どもの可愛さって数字に置き換えることはできません。言葉で言い表すことも難しい。でも、この写真と朗読によって皆さんと、子どもの可愛さについてキャッチボールできると考えます。」とスライドショーをスタートされました。

照明を落とした会場には、活きいきと楽しげな子どもたちの表情がスクリーンいっぱいに映し出されました。元気いっぱいに野山を駆け回り、泥だらけになって遊ぶ子どもたちの物語を、小西氏は優しく語りかけるように読み上げます。摘んだばかりの花びらを両方の鼻に突っ込んで満足げな表情を浮かべるいたずらっこ。好きな女の子を心配げに見守る男の子。口にくわえていたシロツメグサの先に止まったトンボを驚かさないうようにと静かに歩く女の子。屈託のない笑顔や時には大粒の涙を流す子どもたちの姿がそこにはあります。森の中で子どもたちと一緒に遊び、時間を共にする小西氏だからこそ撮ることができる子どもたちの豊かな表情。スライドを見つめる受講生たちの顔にも笑顔がこぼれます。

このスライドショーの中で小西氏は、子どもと向き合うことについて、聖書などの一節を挙げて説明されました。例えば、「喜ぶ人と共に喜び泣く人と共に泣きなさい」(ローマの信徒への手紙 12章 15節)や「夢の中で 幸せの神さまが 微笑んでいます」、「安らかに 信頼していることこそ 力がある」(イザヤ書 30章 15節)などです。中でも、人間発達学部の学生が経験する教育実習についてこんなメッセージが送られました。

プログラムは、ピアノ(秀平雄二さん)、メゾ・ソプラノ(安藤千尋さん)、マリimba(金夢さん)、電子オルガン(新海彩夏さん)、トランペット(大橋香さん)、ソプラノ(山上ゆりなさん)、ピアノ(岩田晃さん)の7名による演奏でした。

卒業して2ヶ月の若き演奏家によるフレッシュで感性溢れる演奏が披露されました。

また、今回は、特別ゲストとして、テノールの笛田博昭氏が出演されました。笛田博昭氏は、本学



1 講師の小西貴士氏
2,3,4,5 小西氏が撮影した子どもたち
6 子どもたちに大人気の小西氏
7 大勢の受講者が聴講に訪れた
8 セミナー終了後には受講者と気さくに談笑する小西氏



「教育実習を体験して、自身の気持ちや希望がちょっとしぼんでしまった人もこの会場の中にみえるのではないのでしょうか。そんな人には、ヨハネによる福音書から『イエスはパンを取り 感謝の祈りを唱えてから 座っている人々に分け与えられました』という言葉を送ります。これは、与えられているものに、まずは感謝をしましょうという内容です。一人ひとり思っているイメージが違うから、一人ひとりに合った保育園や幼稚園があって、一人ひとりを愛してくれる園長先生がいる。そんな園に送り出したいと先生方も思われています。でも、現実はそのようなかもしれないけれど、そこで全部が終わりになる訳ではありません。あなたが望む子どもと一緒に過ごせる環境が目の前に広がっているだけで最高だということです。その現場に行けるところから初めてください。」この言葉に、会場の受講者たちは、気持ちを新たに

したに違いありません。そして、「子どもは大人のミニチュアではありません。大人は子供のことを分かった気持ちになっているけど、あなたも子どもの頃に戻って考えてみてください。子どもたちは自分の感情から時には震えたり、誰かに抱き締められたりしながら大きくなっていくことを。子どもたちは色々な物語を持っていて、一人ひとりに可能性があることを。子どもは子どもを生きています。」とも伝えました。最後に小西氏は「これから保育や教育の現場に来られる皆さん、子ども一人ひとりを好き、愛せるという気持ちは、皆さんが大切にされ、愛されてこそ生まれます。子どもは僕にとって希望ですが、後からいらっしやる皆さんも僕にとっては希望なんです。どうか愛されて、大切にされて、いろんなことを体験して現場へ来てください。」と伝えてこのセミナーを終えられました。

音楽学部

音楽学部同窓会 第32回 新人演奏会が開催されました

2013年5月8日(木)、名古屋市中区の電気文化会館ザ・コンサートホールにおいて、名古屋芸術大学音楽学部同窓会主催の第32回新人演奏会が開催されました。

この演奏会の出演者は、本年3月に本学を優秀な成績で卒業され、それぞれの分野でその将来が囑望されている方々ばかりです。



1 ピアノ演奏
2 メゾ・ソプラノ独唱
3 電子オルガン演奏
4 トランペット演奏
5 特別出演の笛田博昭氏

音楽学部声楽科を主席で卒業、同大学院修了。声楽を中島基晴氏、Lina Vasta 女史に師事。2003年、名古屋芸術大学特別公演「トゥーランドット」カラフ役でオペラデビューされました。2007年、キャスティング・オーディションに合格し、藤原歌劇回公演「ラ・ボエーム」のロドルフォで出演。同

年、上海国際芸術祭公演「蝶々夫人」ピンカートン（東方芸術センター/中国・上海）で出演。その後、多数のオペラ公演・ホールオペラなどに出演。また多くのオペラ・ガラコンサート等に出演。2度の留学中、イタリア・フェッラーラ歌劇場に「イル・トロヴァトーレ」マンリーコで出演。その他コ

ンサート等にも出演し、研鑽を積みまれています。

帰国後は西本智実プロデュースオペラ「蝶々夫人」、藤原歌劇団「仮面舞踏会」リッカルドで出演。またK BALLET Company「第九」等にも出演が予定されており、各地・各方面で留学の成果を発揮され、活躍されています。

今回は、歌劇「道化師」より“衣装を着けろ”、歌劇「アルルの女」より“フェデリーコの嘆き”、歌劇「トスカ」より“星は光りぬ”の3曲を熱唱されました。

心を震えさせるすばらしい歌声が会場に響き、満員の来場者から盛大な拍手が送られていました。

音楽学部
2013年度
音楽学部・人間発達学部
教育懇談会が
開催されました

5月28日(火)、名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、2013年度の音楽学部・人間発達学部合同の教育懇談会が開催されました。

この懇談会は、大学に学生を送り込む側の高等学校や専門学校などと、学生を教育指導して就職や進学させる大学側の両者が、お互いの意思疎通を図り、連携や協同するために行われているもので、毎年この時期に開催されています。地元の愛知県をはじめ、岐阜県・三重県など東海地区の高等学校からたくさんの先生方をお迎えし、懇談会がスタートしました。

冒頭で挨拶に立った竹本義明学長は、本学の教育理念と目標について話されました。「本学は芸術活動を通じて感性と理性を磨き、その調和のとれた学生を養成し送り出すことを目標としています。現代社会は感性がキーワードであり、企業が求める人材は、感性と協調性とコミュニケーション能力です。大学は通常、入り口・中身・出口で評されますが、入り口では専門科目のハードルを下げて入りやすくし、中身はカリキュラ

ムを整理して、学生の消化不良を改善しました。その結果、卒業生は音楽家や作家、教員のみならず、一般の企業を含めて多方面に就職しています。本学は、2020年に創立50周年を迎えます。既存の4学部の融合と再編に向けて新たな挑戦をしていくつもりです。」と述べられました。

この後、山田敏裕音楽学部長と佐藤勝利人間発達学部長の挨拶があり、続けて、両学部の概要に関する説明が行われました。

音楽学部は山田純教授が音楽学部の学科・コース編成や、教育内容とその特色などについて説明しました。この4月から音楽文化創造学科に音楽アートマネジメントコースが開設されたこと、地元の北名古屋市をはじめ、各市と連携して様々な社会貢献活動を実施していること、世界の第一線で活躍するアーティストを客員教授や専任教授として招聘して公開講座を実施していること、学内外で演奏会を数多く開催していること、さらに、音楽総合コースを設置している理由などが説明されました。

人間発達学部は阿部孝准教授が学部の概要として、学生の姿やイメージ、学部の役割、学生の育ちのステップなどについて、映像資料を写しながら解説しました。学生たちを教育者・保育者の専門家



1 挨拶をする竹本義明学長
2 会場の様子
3 山田敏裕音楽学部長の挨拶
4 佐藤勝利人間発達学部長の挨拶
5 音楽学部を紹介する山田純教授
6 人間発達学部を紹介する阿部孝准教授
7 映像を使って学生へのサポートについて説明する菅嶋康浩教授(右下)

として責任を持って社会に送り出していることが説明されました。

次に、菅嶋康浩学生部長から「奨学金制度とキャリアサポート」についての説明が行われました。最初に、学生へのサポートの全体像について、そして、奨学金および表彰制度についてお知らせしました。続いて、就職支援のためのキャリアサポートについて、1年から4年次までの具体的な内容を、また、インターシップとキャリアデザイン講座について、そして最後に、新入生サポート企画のイベントや新入生フレッシュマンキャンプなど、本学の木目の細か

いサポート体制を説明しました。

最後は、司会から本年度のオープンキャンパスと音楽講習会、そして演奏会のスケジュールをご案内して、懇談会を終了しました。

この後、懇談会は別室に席を移してご出席の先生方と本学の関係者で個別の質疑や相談が行われました。会場では質疑応答が活発に行われ、実りある懇談会となりました。

なお、美術学部・デザイン学部の教育懇談会は同様の趣旨で、5月31日(金)午後3時から同ホテルで開催されました。

美術学部 **デザイン学部**
～フェロー諸島×
名古屋交流展～
LATERNA MAGICA
ラテルナ・マギカ(幻灯)が
開催されました

2013年5月10日(金)から15日(木)まで、名古屋芸術大学西キャンパスアート&デザインセンターのギャラリーで、フェロー諸島×名古屋交流展 ラテルナ・マギカ(幻灯)が開催されました。

本展覧会は、アストリ・ルーイン、シーグルン・グンナーシュドツテル、エドワード・フグラーといういずれもフェロー諸島に住

む3人の作家の作品とともに、3人と交流のある名古屋(本学)の5人(石田典子、伊藤里佳、加藤美奈子、柴田麻衣、西村正幸)の作家の作品の交流展です。2008年、本学のワークショップに参加されたシーグルン・グンナーシュドツテル氏のアイデアで、フェロー諸島と日本相互の文化的・人的交流を意図して企画されたものです。2012年の夏、フェロー諸島の中心地Nordic Houseで同名の展覧会が開催されました。この時、上記の日本人5人の作家も招待され参加しています。今回は日本における開催で、4月の大阪市港区海岸通のギャラリー CASOでの開



1 オープニングレセプションで挨拶をする西村正幸教授(左)
2 作家を代表して挨拶をするシーグルン・グンナーシュドツテル氏(左)、右は通訳の加藤さん
3 4 5 会場風景

催に継ぎ、名古屋(本学)で開催されたものです。本学ギャラリー

では、3人の作家の作品だけが展示されました。

展示企画のタイトル「ラテル・ナマギカ」は、ウィリアム・ハイネセン(1900-1991)の“幻灯”(ラテル・ナマギカ)と呼ばれる短編に由来するものです。この短編は、子ども時代の思い出について書かれたもので、期待で胸をワクワクさせながら幻灯の映写会を待っている二人の少年の物語です。しかし、映写機がうまく機能しなかったためショーは最終的に中止になってしまいましたが、そこに至るまでの期待に満ちた長い待ち時間が、逆に貴重な思い出になったという内容です。

ルーイン、グンナーシュドッテル、フグラーの3人は性格を全く異にするアーティストで、彼らの作品は、比喩的な技法を用いた現

代アートの領域で、それぞれ独自の世界を表現しており、ルーインは詩的で抽象、グンナーシュドッテルはシンボリックなアプローチ、そしてフグラーはシュルレアリスム及びポップアートを思い起させる作風を特徴としています。彼らのデザインや表現方法は非常な広範囲にわたっていますが、歴史に対する情熱がこの3人のアーティストの接点といえるでしょう。

一方、日本の5人の作家たちが大阪CASOの展覧会で副題としたのは「A TREE OF PEACE」平和の木です。長い歴史のスパンで考えるなら、立て続けに起こった淡路・神戸と東北の大震災で、自然の“脅威”と“驚異”を私たちは間近にしました。

私たちの寿命より長く生き、死ぬ「木」は、文明が減び、壊滅する中で、「生命」の象徴として人々を癒し勇気づけ「平和」を希求する思いを呼び覚ましてくれました。

昨夏、自然が豊かで厳しいフェロー諸島に迎えられて展覧会を開く時に、5人の名古屋の作家たちに共通する属性として「木」が浮上しました。

全く異なる意味やアプローチで扱われているものの、「木」には負のイメージがありません。いつまでも生き続ける(本当は違うのだけど)「木」の前にたたずむと、感動の鈍い時代の我々が取り戻さなければならない「心をひらいて感じることに気づかされるのです。(本展覧会カタログより抜粋)

展覧会の初日10日の午後4時半から、会場でオープニングパーティーが開催されました。冒頭、展覧会を主催した本学美術学部アートクリエイターコースの西村正幸教授から、挨拶が行われ、本展覧会の趣旨や開催に至った経緯などのお話がありました。

その後、3名の作家を代表して今回出席されたシーグルン・グンナーシュドッテル氏から、お礼の挨拶がありました。フェロー諸島と日本は文化や生活の違いはあっても共通する点も多く、日本がとても好きですとお話でした。

この後、軽食を囲んで作家と展示関係者や来場者による懇親会が行われ、展覧会がスタートしました。

デザイン学部

デザイン学部の学生がウインドウディスプレイを制作しました

デザイン学部の学生が制作した2つのウインドウディスプレイが、4月25日～6月末まで上小田井mozoワンダーシティ、フラクサス名古屋で展示されました。

これは懶ワールドが、学生による空間アートを全国6カ所で行ったものの一つで、今年の春夏のテーマ「Motif Typhoon (モチーフ タイフーン)」に合わせて、学生たちが趣向をこらして展示しました。

上小田井mozoワンダーシティ、フラクサス名古屋には二つのウインドウがあり、モードのウインドウは「find MY COLOR～kaleidoscopic」と題してジオメトリックできらきら輝く世界を、ファミリーのウインドウは「find MY COLOR～material world」と題してカラフルで楽しい素材豊かな世界を表現

しました。

会期中5月13日にファミリーのウインドウの40輪の花は、母の日用の赤系から、父の日用の青、白系に模様替えしました。

また、6月8日、9日には、父の日ワークショップ「お父さんに透明ネクタイをつくろう」を行いました。

■参加学生

テキスタイルデザインコース

- 4年 石川仁美、小島由莉、土井綾乃、古川理恵
- 3年 寺島佑紀、才川清香
- 2年 熊井優香、永井見奈

スペースデザインコース

- 3年 杉浦晴香
- 2年 末竹汐里

デザインマネジメントコース

- 2年 新屋鞠子、北村友美

インダストリアルデザインコース

- 3年 宮下篤子

ビジュアルデザインコース

- 3年 増田梨乃



<http://corp.world.co.jp/news/1388/>



美術学部 デザイン学部

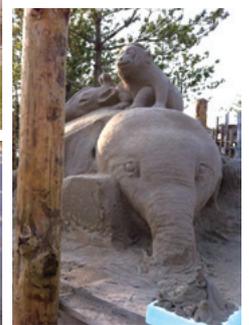
地元北名古屋市との連携活動 彫刻ガイドブック「しむしむ」の編集、吹上浜砂の祭典で「砂像」の制作

本学とモニュメント制作協定を結びアートの普及に力を入れている北名古屋市からの依頼で、市内の各所に設置してある彫刻作品を紹介するガイドブックが作成されました。

ガイドブックを編集したのは、本学非常勤講師の片山浩氏と教え

子の卒業生3名で、一般の人にも理解しやすく誰でも楽しめるように、初心者目線で分かりやすく編集されています。また、すべての作品を巡り写真と地図が掲載されています。彫刻の作者である本学の教授や専攻する学生への取材を基に、イラストなどもふんだんに取り入れて80ページにまとめられています。

本学教員と学生・OBの有志が、鹿児島県南さつま市で行われた吹上浜砂の祭典で砂像の制作に取り組みました。これは、北名古屋市が南さつま市と災害時相互応援協定を結んだ関係で、北名古屋市か



らの依頼で行われたものです。メンバー全員にとって初めての挑戦で、横幅が2.2と1.8m、高さが1.8mの水をかけて砂を固くしめたものを削ることに、砂の強度が分からなくて苦労したとのことですが、なんとか2日間で完成させたよう

です。砂像のタイトルは「みんな仲良いい湯だな」で、大きな像を囲んで猿や馬、ペンギンなどの動物と人が仲良く輪になっている造形となっています。

制作に取り組んだメンバーは右記の6名です。

- 松岡 徹 (アートクリエイターコース教授)
- 浅井和真 (アートクリエイターコース3年)
- 富永和裕 (アートクリエイターコース3年)
- 金山結華 (アートクリエイターコース3年)
- 平井佑奈 (アートクリエイターコース3年)
- 田中 恵 (2012年3月造形科卒業生)

美術学部
桑山忠明氏と
林道郎氏による
特別公開講座
『対談：桑山忠明の
『空間』について』が
行われました

2013年5月14日(火)、本学西キャンパスのB棟大講義室で、美術学部が主催する『対談：桑山忠明の『空間』について』が行われました。これは、2013年度美術学部特別客員教授で現代アート作家の桑山忠明氏と、美術批評家で上智大学国際教養学部教授の林道郎氏による特別公開講座です。

公式な場での対談は今回が初めてという両氏。桑山氏は東京藝術大学日本画科を卒業後、1958年に渡米して以来、ニューヨークを拠点に制作活動を行っています。画面から意味や感情を極限まで排除した絵画で独自の表現を確立。欧米から高く評価され国際的に活躍をされています。90年代以降は「空間そのものをアート化する」をコンセプトに置き、複数の人工的なパネルが連続する空間を創出。近年では2010年に開催された名古屋市美術館での回顧展や国立国際美術館、金沢21世紀美術館での個展が開催されました。また、2012年に神奈川県立美術館葉山での「桑山忠明 HAYAMA」などは、まだ記憶に新しいところです。

対する林氏は東京大学卒業後、1999年にコロンビア大学人文科学研究科美術史学科博士号を取得。美術批評誌『ART TRACE PRESS』編集責任者や、MOMAが出版した論文集『From Postwar to Postmodern, Art in Japan 1945-1989』の編集・執筆などを手がけ、2005年に東京国立近代美術館で開催された「アジアのキュビズム」展ではキュレーターを務めるなど、精力的に研究や発表活動を展開されています。著書には『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』、『零度の絵画-RRの眩き』(ロバート・ライマン—至福の絵画展)などがあります。

今回の講座では、導入に『桑山忠明プロジェクト'96』の映像を鑑賞。この映像の中で桑山氏は「従来からの絵画や彫刻のように、見る人に強く訴えかけること排除し、色のコンポジション(構図)を否定することで、ニュートラルな状態を目指し、絵画作品として見せないようにしている。」と、批評家・多木浩二氏との対談で語っています。桑山氏が表現した“ニュートラル”こそが、桑山作品をひも解く上での重要なキーワードと林氏はいいます。続く対談でも林氏は、そのニュートラルを掘り下げるため「ニュートラルの重要性をいつ頃から感じたのか。」との質問を投げかけました。それに応じて桑山氏は「米国に渡った直後に観たアクションペイ



1 美術学部特別客員教授を務める桑山忠明氏
 2 美術批評家の林道郎氏
 3 両氏が顔を合わせるまたとない機会に大勢の受講者が集まった
 4 終始和やかな雰囲気の中対談は行われた
 5 桑山忠明氏の作品『Yellow & Pink Titanium 90 pieces』20x20x5cm each at Gallery Shilla, Deagu, Korea 2013 photo by Takashi Yamaguchi

ンティング。そのサイズの大きさと、まったく意味を持たない抽象表現。そして、その意味の無い状況で成り立っていることに驚いた。」と答えました。それを機に抽象絵画を土台としながらも、60年代のアメリカ抽象絵画にみる非常にデコラティブで、コンポジショナルな絵画表現を否定することにより、純粹にアートがアートとして成立することを目指し、新しいアートを自分自身で創造、創作すること取り組みます。その自

らの否定性こそがニュートラルだと桑山氏は捉えているようです。その創作活動として、1966年頃からアクリル絵の具にアルミの粉を混ぜ合わせたメタリック作品群の制作をはじめます。「チューブから出したままの絵具の色に、アルミの粉を加え中和することで、色の性格を無くすことができます。色の性格による絵画表現ではない物でも、アートが成り立つことに挑戦しました。」(桑山氏) 色そのものに意味はなく、配列

Column NUA No.21

「笑いとは何ですか？」

音楽学部教養部准教授 キアラ・ザンボリリン

哲学者アルトゥール・ショーペンハウアーは、『意志と表象としての世界』(1819年)という名著で、ユーモアのメカニズムについて語っています。彼の説明を見てみましょう。“笑いを決定するものはただ一つ。それは、あるアイデアとある実物・出来事の「不一致」である。アイデアと実際の物・出来事的不一致を突然に知覚すると、人は驚き、笑う。”これは、ユーモアの根本的なメカニズムだと考えられます。この不一致の感覚は、事実に関する新たな解釈を

活性化します。そのためには、コンテキスト(文脈)と関わる情報をあらかじめ持っていることが前提となります。ショーペンハウアーはこの情報を「アイデア」と呼びましたが、これはまさに人間の頭の中に収められた「スクリプト」のようなものです。意味論的な観点から見れば、これらの「スクリプト」は念頭にある世界についての紋切り型の知識と定義されています。ある出来事が期待されたスクリプトと一致しないとき、滑稽な結果が生じるのです。ただし、不一致によって活性化された新しい解釈は、元のスクリプトとある程度適合する必要があります。そうであれば、それはもはやユーモアではなく、異なる結果(不愉快な驚きなど)

になるかもしれません。では、この理論を適用して、ロベルト・ベニーニの映画『ライフ・イズ・ビューティフル』(伊、1997年)のオープニングシーンを分析してみましょう。1939年、二人の友達フェルッチョとグイードはトスカーナの田舎でドライブを楽しんでいます。車はコンパチブルです。いい天気なので二人は自動車のルーフを開けて、しかし、突然車のブレーキが故障します。車がある村に近づくと、道端に集まった大勢の人の姿が現れます。彼らは国王ウィットーリオ・エマヌエーレ3世の到着を待っているのです。グイードは車の中に立って叫びながら人々に注意を促します。“Via! Via! Non ci so' freni!”「危ない!

の順序もなく、色に価値を持たせない。そのためメタリックのペイントを用い、メタルフレームを用いてラインを加えるなど、絵画的要素である額装(枠)をも排除して視覚的な奥行きまでも否定する。この桑山作品の持つ徹底した仕事ぶりに対し、同時期に同じ世界感を持ったフランク・ステラの仕事を挙げ「桑山さんと呼応する点が多いステラですが、私が受ける二人の作品の印象は違います。」と林氏はいいます。「ステラはアルミペイントなども使いますが、表

面の処理は伝統的なテクニックを用いています。その点、桑山作品の表面処理は、初期段階からかなり余人の追従を許さない拘りが発揮されています。必然的に作品の表面を見る人との関係、空間との関係を意識せざるを得ない。また、桑山さんの作品は空間を組織化することこそがテーマで作品に自立性を持たせません。ステラの作品は、作品自体が自立している点でも桑山さんとの大きな違いとなっています。」と桑山作品を評しました。なお、桑山氏は当時ステラ

とも交流を持ち「同じジェネレーションとして、同じ方向性で戦っていた。」とコメントしました。

さらに、講義終盤では「最近はより彩度の差の少ない作品が多く、ゴールドやシルバーといったチタンを使った作品に至っては、色の温度をも奪いさり、零度に近付けているところが印象的です。」と最近の桑山作品の見どころを林氏が解説されました。また、終始穏やかな口調の桑山氏は「アートは常に変化していくもの。今までを否定しない事には新しいアートを

作りだすことはできない。今までを肯定して絵を描いてはダメ！」と、会場を埋め尽くした多くの受講者に向け、力強いメッセージを送られました。

なお、本年8月より開催される「あいちトリエンナーレ2013」の並行企画事業として、本学では桑山忠明氏の展覧会「Titanium-Art as Space, Space as Art」を、8月10日から9月18日まで西キャンパス内にあるアート&デザインセンター ギャラリーで開催します。ぜひご来場ください。

学校法人 名古屋自由学院
グループ校特集
名古屋音楽学校

『ミュージックのオアシス』



2012年4月から、名芸大グループとして運営している名古屋音楽学校は、1948年に名古屋市伏見に設立され、2009年4月に名古屋市栄に移転して本年で65周年を迎え、また中日ビル内で開設している中日文化センター音楽教室も45周年を迎えます。

名古屋音楽学校は、音楽の専門的な教育機関として、乳幼児から成人までの世代と幅広いジャンルで、豊かな情操、音楽専門教育、

また音楽を愛好する人々に学び楽しむ機会を提供し、音楽文化の振興と発展に資することを目的としております。

現在は、本校に約900名、音楽教室に約650名の生徒が在籍し、約200名の講師陣が指導にあたっています。例年、音楽系大学や高校音楽科への入学を目指す生徒が、ピアノをはじめとする専門コースのレッスンやソルフェージュなどを学習し、今春は、東京芸術大学や名芸大などの音楽系大学に64名、高校に36名が合格しました。2013年度から名芸大で、本校修了生が名芸大に入学した場合、奨学金(入学免除)制度が設けられ、本年度は生徒5名(大学院2名を含む)が入学し、奨学金を受けることになりました。

また、名古屋音楽学校は、本通信23号でもご紹介しましたパリ・エコール・ノルマル音楽院の国内唯一の事業提携機関として、これまでに165名のディプロマ取得(ピアノ)、171名の留学生を輩出してきた実績があり、今後は、名芸大との連携事業の強化を更に進めて行く計画です。

名古屋音楽学校は、通常のレッ

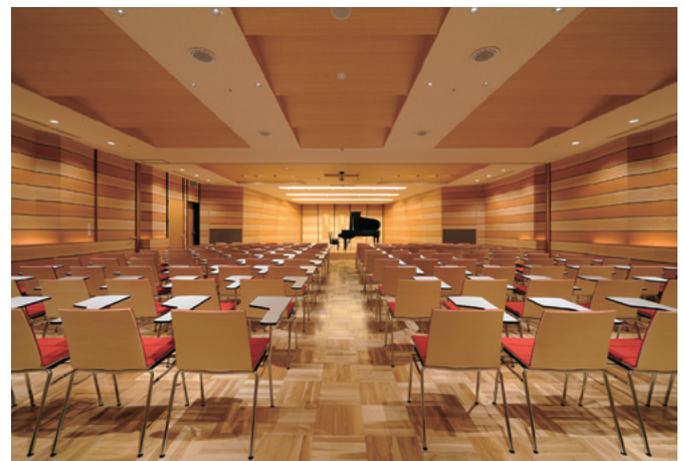
スの他に特別事業として、「日本音楽コンクール受賞記念演奏会(4月に毎日新聞社及びセントラル愛知交響楽団と共催)」、「ダルクローズ・リトミック国際セミナー(4月及び8月)」、「中高生のための楽典教室(7~11月)」をはじめ、各種の指導者養成講座とコンサートを開催しております。

今後は、名芸大グループの「名古屋芸術大学 栄サテライト」の機能を更に活用して、相互の事業充実と拡大を推進したくご理解とご協力をお願いします。

山本 博司 学校長

名古屋音楽学校の
今後の主な催事スケジュール

- 7月28日(日) 15:00 ~
『工藤重典 フルートマスタークラス & ミニコンサート』
聴講料: ¥3,000
(ミニコンサート鑑賞含む)
鑑賞料: ¥2,000
- 8月3日(土) 13:30 ~
『東京芸術大学生によるフレッシュコンサート』
名古屋音楽学校から巣立った学生によるコンサート
(ピアノ・ソプラノ・チェロ)
入場料: 無料(要整理券)
- 8月17日(土)~22日(木)
『ダルクローズ・リトミック 夏期国際セミナー』



ブレーキが故障した! 退いてくれ!」道を空けてもらうために身振り手振りで伝えようとして腕をまっすぐ伸ばしているガイドに、人々はファシスト式の敬礼をし、大声で“Viva il rei!”「王様万歳!」と挨拶します。

「本物」の王様が乗った車はすぐ後で現れますが、もう遅いです。緊張から解放された群衆に王様は無視されてしまいます。ここはとてもコミカルなシーンですが、滑稽な側面は深刻な現実(暗い時代を思わせるファシスト式の敬礼

など)と絡み合っています。

人は色々な事で笑い、また笑いの原因も様々です。しかし、個人差や文化の違いはあるものの、ユーモアのメカニズム自体は変わりません。それは、世界共通なのです。

分析

映画の知っている人のスクリプト(^ _ ^) ⇨ 新たなスクリプト(^ ▽ ^)(^ ▽ ▽)

- 集まった人が王様の車を待っている。⇨ 変わった車が現れる。
- 車は適度なスピードで到着するはずである。⇨ 車は猛烈なスピードで到着して、去ってしまう。
- 車に王様に乗っているはずである。⇨ 車にガイドが乗っている。
- ガイドは危険を知らせるために腕を振る。⇨ それはファシスト式の敬礼と捉えられてしまう。

↓
皮肉なことに、後ほどガイドがユダヤ人であることが明らかになる。(° ◇ °)



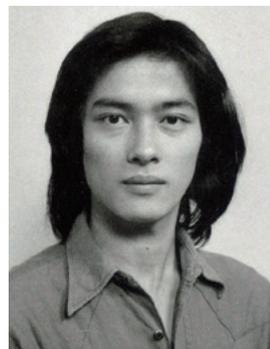


マスター



アーティスト

【第21回】



1979年の卒業アルバムより。「どうです、いいオトコでしょ(笑)」

< 音楽に生きる人 >

竹内雅一

音楽学部教授

(たけうち まさいち)

名古屋芸術大学音楽学部器楽科卒業。クラリネットを小松孝文、山田喜代一、千葉国夫の各氏に師事。フランス・ニース夏期国際アカデミーにてジャック・ランズロ、ワルター・ボイケンスの両氏に師事。ベルギー・アントワープ王立音楽院に留学。スベリアルコースにてワルター・ボイケンス氏に師事すると同時に同氏のクラリネットクワイヤーのメンバーとしてコンサート、レコーディング等に参加。フリー・インプロヴィゼーションをフレッド・ファン・ホーベ氏に師事。セントラル愛知交響楽団、韓国マサンフィルハーモニーオーケストラ等との協奏曲の共演をはじめ、アジア、ヨーロッパなどで活発な演奏活動を行なう。

音楽の話にならない！でも、無類の面白さがある。「学生たちには、コワイ先生と思われてると、思うんだけどなあ」と言いながらも、絶妙の口調で語られる生い立ち話は波瀾万丈、抱腹絶倒なのである。中学生時代のブラスバンドでクラリネットを選ぶいきさつや、音楽高校を受験するまでで何度も吹き出してしまった。女の子にモテたい気持ちと、4歳から始めていたピアノ、自分の才能への自負心がない交ぜになった中学生時代は、流行の言葉で言えば、中二病。バンドの指導にあたり進路指導でも非常な尽力をしてくれた先生も、名口調にかかればどこかとぼけているように聞こえ、竹内少年を振り回して翻弄する。さらにクラリネットで入学した高校は、

音楽科を拡充したばかりの過渡期にあたり、クラスどころか校舎の中に男子学生たった一人という信じられない状況。“ラノベ”じゃないですよねと、問い直したくなるほどだ。「受験したとき、男子は、僕を含めて3人受けていたんです。僕以外のどっちは来ると聞いていたんですけど、いざ入学式に行ったら男は僕一人！当時、音楽科は女子部の校舎に所属していて、女子部の校舎に男一人の状態ですよ。最初は、女性恐怖症になって、つらかったです。朝、学校へ行ってもホームルームで先生が来るまで、教室に入れなくて廊下で待機です。大学に入って“男がいっぱいいる”と、俄然やる気が出ましたよ(笑)」

「高校のとき指導してくれたのは、す

ごく怖い先生で、山本誘先生というんですが、当時、先生が指導されていたバンドはいつも全国大会で賞を取るような先生でした。『竹内一』と怒鳴られて、太いばちで殴られることもありました。ソルフェージュをたたき込まれたのも山本先生でしたね。高校時代に、大学でもお世話になる山田喜代一先生や小松孝文先生のレッスンを受けていましたが、とにかく山本先生が怖くて、そのために一所懸命に練習していました。先生にはそういうつもりはなかったかもしれないけど、中学の先生もそうだし、山本先生も、そういう先生方に引っぱられてきたんですね」

大学へは、千葉国夫氏に教えを受けた



井上堯之 MINDLESS JOHN TRIO
 "Feelingly" (XQCM-1201)
 ■ <http://www.youtube.com/watch?v=wxn-XkjtXC8>
 ■ <http://www.youtube.com/watch?v=UgV-KyFtUVY>
 井上堯之 (g.vo) 竹内雅一 (cl)
 松永祐未子 (pf)
 「井上堯之さんには、ものすごく大きな影響を受けました。65歳で新しいCDを発売したんです。学生たちに「俺も今からデビューするから、おまえら抜いていけ」なんて言っていて。井上さんに倣って、僕も出合いを大切にどんどん仕事を引き受けるようにしています」



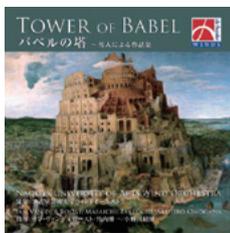
1979年の卒業アルバムより。この頃は、ロックバンドとクラリネットが多忙な日々。左から千葉国夫先生、山田喜代一先生、右端が竹内青年。



Sparkling in the Space
 ■ <http://www.youtube.com/watch?v=c3-cAalFw-A>
 名古屋芸術大学音楽学部 公開講座 & コンサート
 クラリネット：竹内雅一



ミュージカル公演「Sister's War」
 ■ <http://www.youtube.com/watch?v=mhYiWWdVXE>
 演奏：竹内雅一（指揮・Cl）、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ
 出演：名古屋芸術大学ミュージカルコース学生



TOWER OF BABEL：バベルの塔
 ～邦人による作品集
 ■ <http://www.youtube.com/watch?v=UgV-KyFtUVY>
 演奏：名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ
 指揮：Jan Van der Roost、竹内雅一、小野川昭博



吹奏楽：ウィークエンド・イン・ニューヨーク（スパーク）
 ■ http://www.youtube.com/watch?v=Y___5D9d5A
 名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ・第30回定期演奏会
 指揮：竹内雅一 演奏：名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ



サウンドコミュニケーション2013
 ■ <http://www.youtube.com/watch?v=OnJXvlvjNgM>
 名古屋消防音楽隊 第14回定期演奏会
 指揮：竹内雅一



すみれの花咲く頃
 ■ <http://www.youtube.com/watch?v=WK3C3Lcd308>
 指揮：竹内雅一 管弦楽：浜松市民オーケストラ



2007年には、元ザ・スパイダースの井上堯之氏、ピアニストの松永祐未子氏と共に「Feelingly」をリリース。

指揮活動においては、名古屋市消防音楽隊を始め、数多くのオーケストラや吹奏楽団で客演指揮や指導を精力的に行っており、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラの指揮者として国内はもとより、アメリカ、オーストラリア、韓国、ベルギー、アイルランド、オーストリア等海外での公演を行なっている。2002年には香港で行なわれた音楽祭に招かれ、審査やワークショップ等を行なった。また、オランダの

De Haske社より名古屋芸術大学ウィンドオーケストラを指揮したCDがこれまでに10枚以上リリースされている。

この他、横浜国際音楽コンクール、大阪国際音楽コンクール等の審査員も務めている。

現在、名古屋芸術大学大学院音楽研究科・音楽学部教授、クラリネット協会・名古屋理事長、岡崎音楽家協会会員、フランス音楽研究会会員、日本室内楽アカデミー会員。

い一心で本学音楽学部に入學。引き続きクラリネットに打ち込んだかと言えば、そうではないらしい。高校時代から、地元、岡崎市の仲間とハードロックバンド、ディープパープルのコピーバンドを始め、キーボード奏者としてかなり鳴らしていたのだという。「大学を卒業してから2年間くらい活動し、解散したんですけど、それまでにCBSソニーからデビューの話が来たり、地元のアマチュアバンドコンテストの審査員に呼ばれたり、ラジオに出たりと、それでやっというところと真剣に考えてましたから」ヤマハのコンテストでベストキーボーダーに選ばれたほどだというから驚きだ。「大学の頃は、二足のわらじで、両方やってきましたね。一時期、学校が疎かに

なった頃もあったけど、クラリネットの後輩で、むっちゃくちゃ上手くなったのがいまして、これは抜かれると思って奮起したんですよ」

バンド解散後、クラリネットで生きていくことを決め、大学に研究生ということで残った。ここで助けてくれたのはトランペットの和久田照彦先生だった。「24歳の時、フランスへ行きたいと思ったんですが、お金はないし、家にも言えない。それで和久田先生にお金を借りてフランスへ行っただけです」2ヶ月間の短いレッスンだが大きな経験になった。師である千葉氏にも多大な支援を受けた。25歳のとき、千葉氏が教授会を説得、助手に昇格。セントラル愛知交響楽団に

も支えられた。「普通なら、大学の専任をやりながらオーケストラは不可能なんだけど、寛大に皆が支えてくれた。大学側も若いうちしかできないからと、オーケストラ側も本当なら融通はむりだけど、両方から恵まれて、こんないい人生ないですよ！」世界的な作曲家ヤン・ヴァン・デル・ローストとの出会いも、友人であるクラリネット奏者ヤン・ギュンスと居酒屋で飲んでいる時というから、らしいではないか。特別客員教授だった井上堯之氏の琴線に触れたのも、確固たる理由があつたに違いない。

音楽を愛し、音楽に生きることを選んだ人間を、音楽に生きる人々は捨て置けないだろう。

Information

インフォメーション

2013年度 オープンキャンパス日程

※時間は全日程とも10:00~16:00
※人間発達学部の7月・8月実施分は10:00~13:30

■ 音楽学部
9月28日(土)

■ 人間発達学部
7月20日(土)
8月24日(土)
9月28日(土)

■ 美術学部・
デザイン学部
7月14日(日)
9月28日(土)

■ 大学祭&
ミニオープンキャンパス
10月27日(日)
4学部同時開催



2013年度 音楽学部演奏会スケジュール (2013年7月~11月)

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認下さい。
お問合せ先：名古屋芸術大学音楽学部演奏課
(0568)2415141

7月

コンチエルトの夕べ
日 時/7月17日(水) 18:30開演予定
会 場/三井住友海上しらかわホール

8月

第15回 ピアノサマーコンサート
日 時/8月8日(木) 17:30開演予定
会 場/名古屋芸術大学 音楽学部
3号館音楽講堂ホール

NUA Strings 第6回 定期演奏会

日 時/8月28日(水) 18:45開演予定
会 場/電気文化会館
ザ・コンサートホール

チケットお取り扱い場所

- 名古屋芸術大学音楽学部演奏課
Tel. 0568-24-5141
- 愛知芸術文化センターB2F プレイガイド
Tel. 052-972-0430
- ヤマハミュージック東海
名古屋支店プレイガイド
Tel. 052-201-5152
- カワイ名古屋
Tel. 052-962-3939

9月

ウィンドオーケストラ 第32回 定期演奏会
日 時/9月24日(火) 18:30開演予定
会 場/愛知県芸術劇場コンサートホール

10月

あいちりエンターレ2013 祝祭ウィーク ショービジネスに乾杯!
日 時/10月3日(木) 18:00開演予定
会 場/愛知県芸術劇場大ホール

研究生特別演奏会

日 時/10月10日(木) 18:00開演予定
会 場/電気文化会館
ザ・コンサートホール

オーケストラ 第31回 定期演奏会

日 時/10月24日(木) 18:45開演予定
会 場/愛知県芸術劇場コンサートホール

11月

第21回 ピアノの夕べ
日 時/11月14日(木) 17:30開演予定
会 場/電気文化会館
ザ・コンサートホール

音楽学部 第36回 定期演奏会

日 時/11月21日(木) 18:00開演予定
会 場/三井住友海上しらかわホール

名古屋芸術大学2014年度入試日程

学部	入試種別	登録期間	診断日	結果発表
■ 音楽	AO入試エントリー(A)	7月 8日~ 7月26日	8月 5日~9月8日	9月11日
	AO入試エントリー(B)	8月19日~ 8月30日	9月 8日	9月11日
■ 人間発達	AO入試エントリー	8月 8日~ 8月27日	9月 8日	9月13日
■ 美術	AO入試プレントリー(第1回)	6月17日~ 7月12日	7月20日	7月29日
	AO入試プレントリー(第2回)	6月17日~ 7月19日	7月27日	7月29日
■ デザイン	AO入試プレントリー(第1回)	6月17日~ 7月12日	7月20日	7月29日
	AO入試プレントリー(第2回)	6月17日~ 7月19日	7月27日	7月29日

※(注)AO入試(A)は、演奏学科声楽・ピアノ・電子オルガン・弦管打各コース、AO入試(B)は、演奏学科音楽総合コース、音楽文化創造学科全コース。

学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日	
■ 音楽	AO入試(A)(B)	9月12日~ 9月26日	10月 6日	10月11日	
	推薦入試	10月 9日~10月31日	11月 9日	11月15日	
	3年編入試(前期)	10月 9日~10月31日	11月 9日	11月15日	
	3年編入試(後期)	1月 7日~ 1月22日	2月 6日	2月12日	
	一般A日程 社会人・留学生入試	1月 7日~ 1月22日	2月 5日・6日	2月12日	
	特待生入試	1月 7日~ 1月22日	2月 6日	2月12日	
	一般B日程 社会人・留学生入試	2月14日~ 3月20日	3月25日	3月26日	
	A日程入試	11月 5日~11月22日	12月 7日	12月13日	
	B日程入試	2月14日~ 3月20日	3月25日	3月26日	
	■ 大学院	音楽研究科	2月14日~ 3月 4日	3月11日	3月13日
■ 美術	AO入試(日本画領域を除く)	8月 1日~ 8月15日	8月24日	8月27日	
	推薦入試	10月11日~10月25日	11月 3日	11月 8日	
	3年編入1期入試	10月17日~10月31日	11月 9日	11月15日	
	地域入試(浜松・金沢)	11月13日~11月27日	12月 7日	12月13日	
	A日程第一方式(センタープラス)	1月 9日~ 1月23日	2月 5日	2月10日	
	A日程第二方式(一般試験)	1月 9日~ 1月23日	2月 5日	2月10日	
	社会人入試	1月17日~ 1月31日	2月10日	2月14日	
	社会人シニア・社会人3年編入入試	1月17日~ 1月31日	2月10日	2月14日	
	3年編入2期入試	1月17日~ 1月31日	2月10日	2月14日	
	センター利用入試(前期)	1月20日~ 2月 3日	センター試験のみ	2月14日	
■ 大学院	B日程第一方式(センタープラス)	2月20日~ 3月20日	3月24日	3月25日	
	B日程第二方式(一般試験)	2月20日~ 3月20日	3月24日	3月25日	
	センター利用入試(後期)	2月20日~ 3月20日	センター試験のみ	3月25日	
	I期入試	10月17日~10月31日	11月 9日	11月15日	
	II期入試	1月22日~ 2月 5日	2月14日	2月21日	
	■ 美術研究科	研修生入試	1月22日~ 2月 5日	2月14日	2月21日
	■ 研究生	研究生入試	2月14日~ 2月28日	3月 7日	3月14日
	■ 転学部	転学部入試	2月14日~ 2月28日	3月 7日	3月14日
	■ デザイン	AO入試	8月 1日~ 8月15日	8月24日	8月27日
		推薦入試	10月11日~10月25日	11月 3日	11月 8日
3年編入1期入試		10月17日~10月31日	11月 9日	11月15日	
地域入試(浜松・金沢)		11月13日~11月27日	12月 7日	12月13日	
A日程第一方式(センタープラス)		1月 9日~ 1月23日	2月 5日・6日	2月10日	
A日程第二方式(一般試験)		1月 9日~ 1月23日	2月 5日・6日	2月10日	
社会人入試・社会人3年編入入試		1月17日~ 1月31日	2月10日	2月14日	
3年編入2期入試		1月17日~ 1月31日	2月10日	2月14日	
センター利用入試(前期)		1月20日~ 2月 3日	センター試験のみ	2月14日	
B日程第一方式(センタープラス)		2月20日~ 3月20日	3月24日	3月25日	
■ 大学院デザイン	B日程第二方式(一般試験)	2月20日~ 3月20日	3月24日	3月25日	
	センター利用入試(後期)	2月20日~ 3月20日	センター試験のみ	3月25日	
	I期入試	10月17日~10月31日	11月 9日	11月15日	
	II期入試	1月22日~ 2月 5日	2月14日	2月21日	
	■ 研究科	研修生入試	1月22日~ 2月 5日	2月14日	2月21日
	■ 研究生	研究生入試	2月14日~ 2月28日	3月 7日	3月14日
	■ 転学部	転学部入試	2月14日~ 2月28日	3月 7日	3月14日
	■ 人間発達学部	AO入試	9月17日~ 9月26日	10月 6日	10月11日
		3年編入A日程入試	10月 9日~10月31日	11月 9日	11月15日
		推薦入試A	10月 9日~10月31日	11月 9日	11月15日
推薦入試B 社会人		11月 5日~11月25日	11月30日	12月 6日	
大学入学資格審査入試		11月18日~11月29日	12月4日審査、2月6日試験	2月12日	
一般A日程入試		1月 7日~ 1月20日	2月 5日・6日	2月12日	
センター前期入試		1月 7日~ 1月24日	センター試験のみ	2月12日	
センター後期入試		2月14日~ 3月 3日	センター試験のみ	3月13日	
一般B日程入試		2月14日~ 3月 3日	3月11日	3月13日	
3年編入B日程入試		2月14日~ 3月 3日	3月11日	3月13日	
■ 大学院	人間発達学	一次入試	9月 9日~ 9月19日	10月 6日	
	研究科	二次入試	11月 5日~11月15日	11月30日	
	研究科	三次入試	2月12日~ 2月21日	3月11日	
■ 研究生	研究生入試	2月14日~ 3月 4日	3月11日	3月13日	

※(注)各入試で実施されるコースや専攻の詳細及び指定校推薦など上記以外の入試については、学生募集要項を参照してください。

2013年度 アート&デザインセンター 展示会スケジュール(予定)

※会期内容に変更になる場合がありますので、事前にご確認下さい。
会場無料となります。お問い合わせ先：05682410325

7月 5日(金)~ 7月10日(水)	四年生はたいへんだ
7月12日(金)~ 7月17日(水)	2013年度前期留学生作品展
7月19日(金)~ 7月24日(水)	洋画1コース3年展
7月26日(金)~ 8月 7日(水)	素材展
8月10日(土)~ 9月18日(水)	2013年度企画展 桑山忠明 Titanium-Art as Space, Space as Art
9月20日(金)~ 9月25日(水)	“解放たれた約束”吉岡弘昭全版画1967~2013 出版記念展
9月27日(金)~10月 2日(水)	名古屋芸術大学「彫刻コース展」
9月27日(金)~10月 2日(水)	洋画2 コース3・4年選抜展「ソナチネ」
10月 4日(金)~10月 9日(水)	『遭遇するドローイング:ハノーファー&名古屋2013』展
10月11日(金)~10月16日(水)	アーク! ラジオ&大学院同時代表現研究展
10月18日(金)~10月23日(水)	名古屋芸術大学大学院洋画制作2013
10月25日(金)~11月 1日(金)	2013年度企画展 デザイン学部客員教授展
11月 5日(火)~11月13日(水)	2013年度企画展 phono/graph(フォノグラフ)展
11月15日(金)~11月20日(水)	MCD デパートメント
11月22日(金)~11月27日(水)	「幼稚園児たちのゲイジツ」展
11月22日(金)~11月27日(水)	「Hand Hospespace; 医療と美術」展
11月29日(金)~12月 4日(水)	洋画2 コース選抜展
11月29日(金)~12月 4日(水)	内面的刺繍表現

Open/12:15~18:00 (最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日原則休館



表紙の写真

和田義行 教授
(大学院デザイン研究科 デザイン学部)



学生時代、始めて間もない頃のデザイン科の話や、30代にして奥さんと子どもを連れての英国留学など、まるで冒険小説のような話に胸躍らせる。そして、いつか話は学生たちのことへ。デザインエドゥケーターとしての気骨に触れる。
(2013年5/28 インダストリアルデザイン実技室にて)

発行：名古屋芸術大学
企画・編集：全学広報誌編集委員会
デザイン協力：くまな工房一社
印刷：株式会社クイックス
発行日：2013年7月10日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nuu.ac.jp



大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。